



平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

東広島医療センターの呼吸器グループは、広島中央医療圏において日常診療に携わっておられる地域医療機関の先生方との連携をこれまで以上、大切に

にするべく、今後定期的に“**Updated Topics and Report**”を皆様にお届けいたします。先生方に信頼

していただける医療を提供できるように診療レベルの向上に努めてまいりますので、大変ご多忙中のと

ころと存じますが、診療の合間にお読みいただければ幸いです。今回は、当院で積極的に行っている

『**EBUS (Endobronchial Ultrasonography : 超音波気管支鏡)**』のご紹介と、『**複数科による集学的治療を行った肺尖部胸壁浸潤癌 (パンコースト腫瘍) の1切除例**』の報告です。

東広島医療センター呼吸器グループに対しますご意見・ご質問・ご感想、またお知りになりたい

情報等ございましたらご連絡いただけますと幸いです (地域医療連携室 FAX : 082-493-6488)。



2017年9月

▶ 超音波気管支鏡ガイド下針生検 (EBUS-TBNA)

肺癌の縦隔リンパ節転移有無やサルコイドーシスの診断のため、気管や気管支壁外にあるリンパ節の生検が必要となる場合があります。以前は盲目的に吸引針生検を実施したり、全身麻酔での縦隔鏡検査を行なっていましたが、現在、当院では超音波気管支鏡 (EBUS : Endobronchial



Ultrasonography、図1) を用いて気管や気管支壁外にあるリンパ節を観察し、気管 (気管支) 壁を貫いてリンパ節に針を刺し (図2)、リンパ節内の細胞や組織

を吸引して採取する超音波気管支鏡ガイド下針生検 (EBUS-TBNA) を施行しています。

直接リンパ節を画像上確認し、リンパ節近傍の血管も避けながら針生検が可能のため (図3)、従来の方法より、安全で侵襲の少ない方法であるだけでなく、診断率も向上しています。最近では悪性リンパ腫の診断も可能となっています。近隣の病院からの紹介もあり、年間20例程の検査を施行しており、今後も積極的に実施していきたいと考えております。

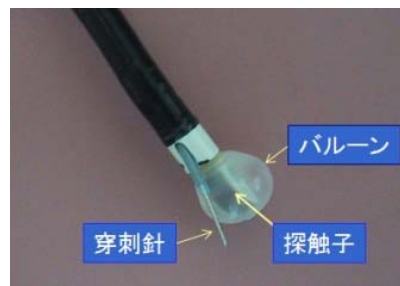


図1

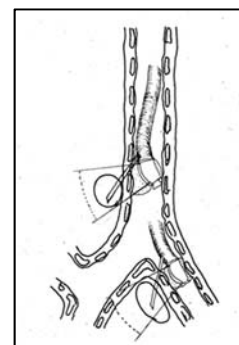


図2



図3

➤ **複数科による集学的治療を行った肺尖部胸壁浸潤肺癌（パンコースト腫瘍）の1切除例**

(症例) 50代の男性で継続する咳嗽を主訴に近医を受診し、胸部単純写真で左肺尖部に大きな腫瘍陰影(図1)を認めたため当院紹介。放射線科によるCTガイド下針生検を施行し、肺腺癌と診断された。肺尖部胸壁ならびに左鎖骨下動静脈への浸潤が疑われた(図2)。



図1

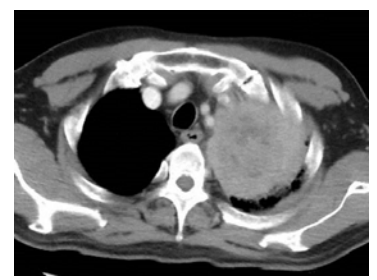


図2

(呼吸器グループカンファレンス) cT4N1M0 Stage IIIAとして術前放射線化学療法を施行の上、呼吸器外科および心臓血管外科合同での手術を行う方針となった。

(治療経過) 最新の機器による放射線治療(40Gy/20fr)と化学療法(weeklyカルボプラチン+パクリタキセル)を施行。手術は、左鎖骨と胸骨左上一部を切離することで左肺尖部から肩にかけての鎖骨下動静脈に対する手術操作が可能となるtransmanubrial approach(図3)により開始。第1, 2肋骨を合併切除し、心臓血管外科医師により鎖骨下動静脈と腫瘍の剥離が施行された。胸壁に加え、迷走神経、横隔神経、胸管を含めた左片肺全摘出術を施行した。

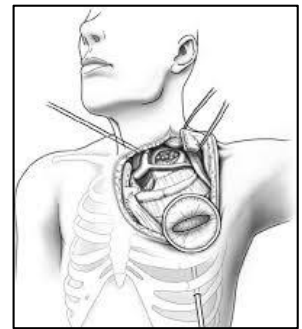


図3

(病理検査所見) 腫瘍径10.0cmの低分化充実型肺腺癌で、胸壁浸潤および上縦隔リンパ節(#5)への転移を認め、ypT4 ypN2 M0 Stage IIIB, ly1, v1, R0(顕微鏡学的完全切除)と診断された。

(考察) 肺尖部の胸壁ならびに鎖骨下動静脈への浸潤が疑われた大型のパンコースト型肺癌に対して、放射線科と呼吸器内科による診断ならびに術前放射線化学療法をおこない、呼吸器外科と心臓血管外科の合同チームにより、特殊な前方アプローチ法を用い、完全切除が可能となった。東広島医療センターにおける**複数科(呼吸器内科・呼吸器外科・放射線科・心臓血管外科)**の充実した**医療スタッフが協力して集学的治療を行った症例**であった。

➤ **呼吸器外科：原田医師が8月にスイスで開催された第47回万国外科学会総会において、Best Poster Prize Winner(最優秀ポスター発表賞)に輝き、表彰されました。**



万国外科学会(International Society of Surgery: ISS/SIC)は、1902年に創設された世界最古かつ大変権威のある国際外科学会です。



東広島医療圏における呼吸器関連症例の3~4割が広島や呉等の域外で治療を受けていると推測されます。この医療圏の中でも十分な医療サービスを提供できるよう、充実したスタッフによる最良の診療を行ってまいります。また**原則としてご紹介いただいた患者さんは、ご紹介元の先生に逆紹介するように心がけております**。何かご不明、ご不満な点などございましたら担当医までご一報頂けたら幸いです。今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。